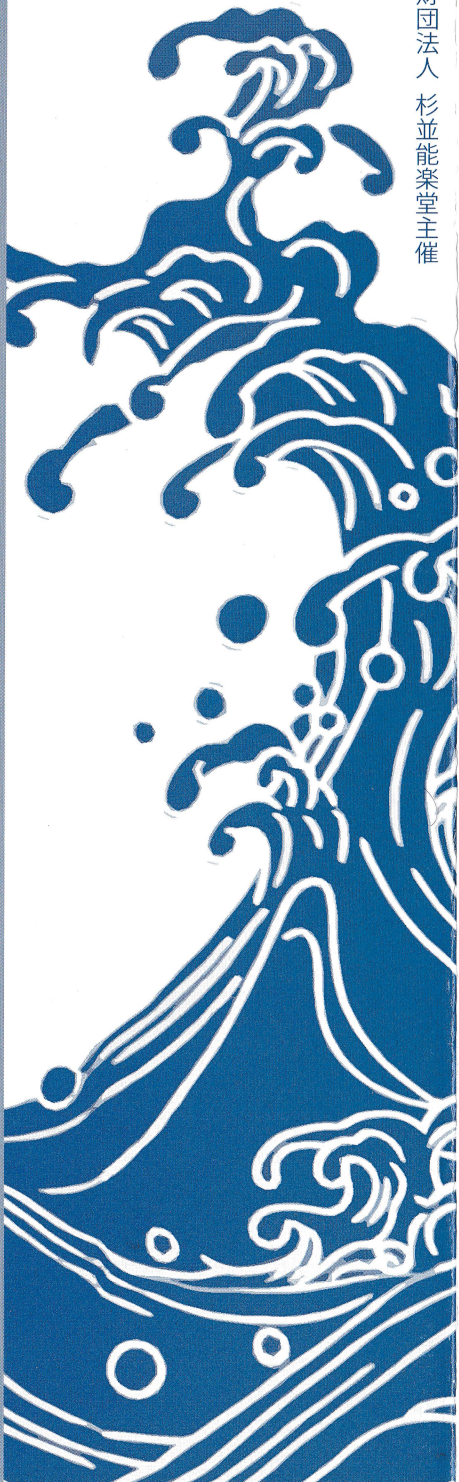


青青会

大蔵流狂言 第六十一回 ◆入場料 全席自由席（見所は座敷です）一般二〇〇〇円 学生一〇〇〇円

平成三十年 二月十八日（日）午後一時半開演

杉並能楽堂



一般財団法人 杉並能楽堂主催

次回公演のご案内 山本会別会
 平成30年4月30日（月・振替休日）
 午後2時開演（午後1時開場）国立能楽堂

狂言『麻生』 シテ：山本 東次郎
 狂言『鐘の音』 シテ：山本 則俊
 狂言『通円』 シテ：山本 則秀
 狂言『若市』 シテ：山本 泰太郎

Suginami Nohgakudo

杉並能楽堂



東京メトロ丸ノ内線 中野富士見町駅より徒歩5分

杉並能楽堂

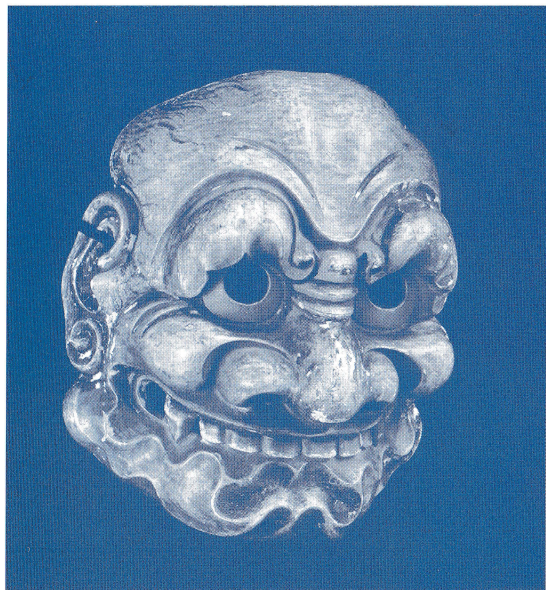
〒166-0012

東京都杉並区和田 1-55-9

TEL 03-3381-2279

表紙 立浪（山本東次郎家所蔵・肩衣より）

Photo: Yoshiaki Kanda



◎抜殻（ぬけがら）

使いを頼む時、いつも酒を振る舞ってくれる主人が、今日に限って忘れていた。ようやく思い出してくれたが、いつもと違う段取りに、つい飲み過ぎてしまった太郎冠者。使いにやったものの心配になった主人が様子を見に行くと、太郎冠者は道の真ん中で眠りこけていた。呆れ返った主人は、少々懲らしめてやろうと、眠っている太郎冠者の顔に鬼の面を付けてしまう。

◆「抜殻」シテ使用面「鬼」

鬼の面でありながら凶悪さが微塵もなく、完璧な造形美を誇る狂言面の傑作。顎髭のような曲線模様が殊に目を引く。面としては小振りな大きさだが、舞台上では決して小さくは見えず豊かな表情を見せる。今回の「抜殻」の他、「首引」「神鳴」などで使用される。伝河内井関家重作。桃山時代。山本東次郎家所蔵。

青青会 番組

佐渡 狐

シテ（佐渡の百姓）

若松 隆

アド（越後の百姓） 山本 則重
アド（奏者） 山本 則俊

休 憩

鎌 腹

シテ（夫）

山本 凜太郎

アド（妻） 山本 則孝
アド（仲裁人） 山本 東次郎

休 憩

抜 殻

シテ（太郎冠者）

山本 泰太郎

アド（主） 山本 則秀

◎佐渡狐（さどぎつね）

例年のように年貢を納めに都へ上る越後のお百姓、旅の途中、同じように都へ上る佐渡のお百姓と道連れになった。互いに似合いの二人だと喜んでいたのもつかの間、越後のお百姓がふと口にした「佐渡には狐がいないだろう」の一言が佐渡のお百姓のプライドを傷つける。狐がいるかいないか、刀を賭け物にして、都の奏者（取り次ぎの役人）の判定に委ねることにした二人、佐渡のお百姓は奏者を味方につけようと画策する。

◎鎌腹（かまばら）

あちらこちらの家の頼まれ仕事でなかなか家に帰れない夫、ようやく帰宅した途端、待ちかねた妻に、山へ行って木を切ってきてほしいとせつつかれる。動かない夫に堪忍袋の緒が切れた妻は、夫を打ち殺して自分も死んでやると、棒を持って追いかける。仲裁人の取りなしでその場をおさめ、妻の言いつけに従って山へ出掛けた夫であるが、妻に殺されるよりも自ら死んだ方がいい、世間の人が感心するように格好良く死のうと考える。